

令和3年度 第1回 学校関係者評価委員会議事録【こども環境科・介護環境科】

日 時 令和3年11月10日（水）16：00～17：15

場 所 学校法人 ほつかいどう学院 くしろせんもん学校 1階 音楽室

出席委員	北構 和代 山本 綾子 戸田 竜也 小野 信一 住尾 盛	(釧路市私立保育園連合会副会長、昭和どんぐりの家保育園 園長) (釧路市私立幼稚園連合会理事・会計、釧路聖母幼稚園 園長) (北海道教育大学釧路校 教育学部 准教授) (北海道社会福祉協議会 釧路地区事務所 所長) (釧路市P T A連合会 顧問、昭和中央2丁目町内会 会長)
欠席委員	伊東 義光	(北海道介護福祉士会釧根支部 支部長・道東勤医協 高齢者住宅すずらん 管理者)
出席職員	杉村 典史 氏原 陽子 伊東 利恵 長谷 由香 若生 みゆき	(くしろせんもん学校 校長) (くしろせんもん学校 こども環境科 学科長) (くしろせんもん学校 介護環境科 教員) (くしろせんもん学校 介護環境科 教員) (くしろせんもん学校 事務主任)
欠席職員	奥田 泰朗	(くしろせんもん学校 こども環境科 教員)
配付資料	①レジュメ（委員名簿・次第など） ②令和2年度 第2回 学校関係者評価委員会議事録 ③令和2年度 学校関係者評価の結果 ④学校関係者評価のための各種資料 (出前、来校一覧・年間行事計画・オープンキャンパスチラシ・修学資金貸付制度チラシ他)	

1. 開会（司会：氏原）

2. 開会にあたって

- (1) 挨拶および経過報告（杉村）
- (2) 今年度の委員と学校職員の紹介（各委員への委嘱）
- (3) 司会者の決定（戸田委員選出）

3. 次第（司会：戸田委員）

- (1) 令和2年度 第2回 学校関係者評価委員会議事録の確認（若生） 資料②参照
- (2) 令和2年度の学校関係者評価結果について 資料③参照
 - ①報告（学校から）
 - ②報告に対する質疑応答

小野委員

オープンキャンパスをリモートで実施したとのことで、コロナ禍だからこそ踏み込めたことや、できたことがあれば知りたい。

学校側回答（杉村）

学校祭はできなかったが、地域清掃に取り組んだことと、校舎の外壁に垂れ幕を作成して飾った。学校祭ほどのパワーは地域に発信できなかったが、学生たち自身で考案し実施してくれたことが何よりうれしかった。

（氏原）

学生による発表を、コロナ前には園児たちを招く形で実施していたが、こちらから園に赴いて発表する機会を頂いた。

（伊東）

支援学校に校外学習に行けたことは、学生にとって大きな刺激になったと感じる。また、介護2年生は協調性

が高く、1年生を引っ張る形で関わってくれた。

戸田委員

財務と教育環境について、直接教育に関わる設備や教材のことで課題があるのか？また、防災設備について、現状どのように取り組まれているのか知りたい。

学校側回答（校長）

防災について、全校の音響設備を修理・設置した。

住尾委員

非常に色々な取り組みをしていると評価している。新聞記事などで学校のことを知る機会が増えたように思う。地域の一員として学校にできることや、その逆も何かを考えている。地区の高齢化に伴い、学生が関わってサポートしていく方法はないか。例えば、家庭で使える介護講座の様な。注目度は高いように思う。

学校側回答（若生）

数年前ではあるが、小さい子どもを持つ近隣の保護者を対象に、子育ての相談や悩みなど話せる会を毎週開いていた時期がある。教員が保護者と話をしている間、学生が子どもたちを見守り、遊ぶといった取り組み。誰でも参加ができる公開講座を実施したこともある。

（校長）

環境・教育研究センターでは、市民に向けて講座や散策会などを実施している。新聞社や各企業にも協力を頂いている。

戸田委員

高校訪問をした際、保護者からの情報も参考にしながら進学の動機付けをしている高校もある。学生募集にも繋がると感じた。

北構委員

おもちゃ美術の話題に魅力を感じた。近隣の保護者を呼んでおもちゃに触れる機会を設けるなどできたら良いと思う。入試基準について知りたい。

学校側回答（校長）

入学区分により違いがあるが、小論文試験と面接試験を導入している。面接で実力を十分に発揮できなくても、入学後の成長に期待したい。

山本委員

卒業生の就職後、学校へ相談に来ることはあるのか？

学校側回答（伊東）

卒業後もしっかりとアフターフォローができる体制が理想。年に2～3人は、電話や来校して近況報告してくれる。技専委託生は、紙面で報告をもらっている。

（氏原）

就職先の方から、現状報告を頂くこともある。

山本委員

退学生について、事前に相談に来るなど辞める前の状況を知りたい。

（長谷）

入学時点で何かしら課題や悩みを抱えていることもある。一人一人に寄り添っていかなければと感じる。継続的な関わりを持って、学校全体でどのように関わっていく必要があるのかを検討していくかななければならない。

小野委員

日常生活の支援を行う施設や支援員との連携をしていることで、専門的なノウハウを学校へ提供できればと思う。ICTを使用したコミュニケーションツールなどもどんどん取り入れて活用できるようになると良い。また、ホームページにて、学生の出演する動画で学校をアピールしているとのこと。様々なSNSや動画配信サービスでのさらなるアピール戦略をぜひ検討して欲しい。

実習報告会を楽しみにしている。発表資料も内容のまとまりも感心する。介護現場での記録の重要性をとても理解していると感じた。文章表現に力を入れた成果が表れているのではないか。

住尾委員

経済的な学生の現状について、実習準備期間を含めると相当期間アルバイトを休むことになると思うが、今後も同様の対応が続くのか？経済的な理由で学業を断念する事がないよう考慮してほしい。

学校側回答（校長）

個々人の状況は把握していなかった。高等教育の修学支援新制度や北海道の修学資金等、活用してもらいたい。

戸田委員

地域、家庭で成長しきれなかった生徒が入学するケースもあるが、期待を持って応援したい。

小野委員

ヤングケアラーについて、テレビでも急速に報道されつつある。民生委員の研修などで取り入れるなど意識づけていく。支援していくかなければならないと感じている。

4. 閉会（司会：氏原）

(1) 挨拶（校長）

以上

(記録：若生)